

2026年8月6日公表

容量市場 追加オークション約定結果 (対象実需給年度：2027年度)

2026年8月6日

電力広域的運営推進機関

1. はじめに

- (1) 容量市場の概要
- (2) 追加オークションについて
- (3) 約定結果の公表
- (4) 用語説明

2. 2026年度実施 容量市場追加オークション（対象実需給年度：2027年度）の約定結果

- (1) 概要
- (2) 約定総容量、約定価格、約定総額
- (3) 約定総容量、約定総額
- (4) 一般送配電事業者・小売電気事業者が負担する容量抛出金（試算）
- (5) 需要曲線と供給曲線
- (6) 発動指令電源の調整係数

3. オークション結果の集計・公表

- (1) 供給信頼度
- (2) 電源等の応札容量
- (3) 応札容量と落札容量（落札率）
- (4) 発電方式別の応札容量
- (5) 落札されなかった電源の応札容量
- (6) 一般送配電事業者・小売電気事業者が負担する容量抛出金（試算）
- (7) 応札価格の加重平均
- (8) 応札価格の分布
- (9) 追加オークションの約定結果公表時点の確保している供給力
- (10) 追加オークションの約定結果公表時点の調整機能あり電源の約定総容量

4. オークション結果の推移

- (1) 調整機能あり電源の契約容量

参考：各種資料等参照先

1. はじめに

(1) 容量市場の概要

3

【全体】

■ 容量市場とは

- ✓ 容量市場とは、電力量 (kWh) ではなく、将来の供給力 (kW) を取引する市場。
- ✓ 将来にわたる我が国全体の供給力を効率的に確保する仕組みとして、発電所等の供給力を金銭価値化し、多様な発電事業者等が市場に参加していただき供給力を確保する仕組み。

■ 容量市場導入の目的

- ✓ 発電事業者等に支払われる容量確保契約金額によって電源投資が適切なタイミングで行われ、予め必要な供給力が確実に確保されるようにすること。
- ✓ 卸電力市場価格の安定化を実現することで、小売電気事業者等の安定した事業運営を可能とするとともに、電気料金の安定化により需要家にもメリットをもたらすこと。

(※概要説明ページ)

- 【かいせつ容量市場スペシャルサイト】 <https://www.occto.or.jp/capacity-market/>
- 【容量市場説明会資料・動画】 https://www.occto.or.jp/market-board/market/youryou_setsumeikai.html

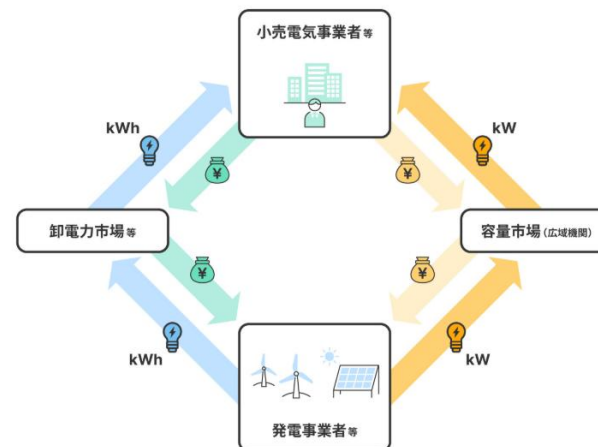
【各市場で取引される価値】

電源等の価値*	取引される価値 (商品)	取引される市場
電力量 【kWh価値】	実際に発電された電気	卸電力市場 (スポット、ハースト市場等)
容量 (供給力) 【kW価値】	発電することが出来る能力	容量市場
調整力 【ΔkW価値】	短時間で需給調整できる能力	調整力公募 → 需給調整市場
その他 【環境価値**】	非化石電源で発電された電気 に付随する環境価値	非化石価値取引市場

* 上図は電源を想定して記載しているが、ネガワット等は需要制御によって同等の価値を生み出すことが可能。また、一つの市場において、複数の価値を取り扱う場合も考えられる。

** 環境価値は非化石価値に加えて、それに付随する様々な価値を包含した価値を指す。

出典: 第69回 電力・ガス基本政策小委員会 (2024年1月22日) 資料3より



1. はじめに

(2) 追加オークションについて [1/2]

【追加オークション】

4

■ 追加オークションとは

- ✓ メインオークション実施後の想定需要の変化や供給力の変化を踏まえ、必要と判断された場合に、実需給年度の1年前に実施するオークション。
- ✓ 必要供給力に対し、メインオークションで調達した供給力に不足が認められた場合に、追加で容量提供事業者を募集する「調達オークション」を実施。
- ✓ 必要供給力に対し、メインオークションで調達した供給力に余剰が認められた場合に、容量確保契約に定められた容量をリリースする容量提供事業者を募集する「リリースオークション」を実施。

■ 調達オークションの参加対象電源

- ✓ 調達オークションへ参加対象となる電源等は、調達オークション開催エリアにおいて、実需給年度に供給力を提供できる安定電源・変動電源・発動指令電源。メインオークションと同様に、相対契約を締結している電源等も容量市場に参加することが可能。
- ✓ 応札可能な電源等の容量は、メインオークションで入札して落選した非落札の電源等の容量、およびメインオークション時に実需給年度における供給力の提供が確定していなかった未応札の電源等の容量※1,2。

※1：メインオークションにて落札した発動指令電源は、実効性テストにより期待容量の評価を行い、実効性テスト後の期待容量と契約容量の差分が1,000kW以上の場合は、当該容量が調達オークションへ応札可能。

※2：電源等差替を行った差替元電源については、差替容量分が応札可能となる場合あり。

■ リリースオークションの参加対象電源

- ✓ リリースオークションへ参加対象となる電源等は、リリースオークション開催エリアにおいて、実需給年度を対象としてメインオークションで落札した全ての安定電源・変動電源・発動指令電源。
- ✓ 応札可能な電源等の容量の最大値は、以下のとおり。
 - 部分リリースの場合は、容量確保契約の契約容量を上限として、契約容量から応札容量を差し引いた値が1,000kW以上となるように応札情報を登録。約定後の契約容量が1,000kW未満（1～999kW）となる場合は、応札情報の登録不可。
 - 全量リリースの場合（契約容量から応札容量を差し引いた値が0kW）は容量確保契約の全ての容量。

- 電力広域的運営推進機関では、2026年度の容量市場追加オークション（対象実需給年度：2027年度）について、2026年3月から参加登録受付を開始し、4月に追加オークションの実施を決定して、6月に追加オークションの応札受付を行ったところ。

➤ **実施したオークション：調達オークション（全国）**

- この度、業務規程および募集要綱に定めるところにより、約定結果を公表する。
- 公表にあたっては、容量市場の在り方等に関する検討会において、市場競争の状況の検証のため、事業者の経営情報（個別電源の応札価格など）の扱いや個社情報が特定されないようにすること※等に留意した集計方法を取りつつ、オークション結果の集計・公表を行うこととされている。

※ 個社情報の特定に至らないよう、原則として3者以上のデータで構成されるよう集計する。

- なお、本資料の集計において、端数処理の関係で合計が合わないことがある。
- 一部の内容については、追加オークションの結果だけではなく、容量市場全体の状況を集計している。

凡例（ページ右肩）：

【追加オークション】

追加オークションの結果

【全体】

容量市場全体の状況

＜電力広域的運営推進機関 業務規程＞

（メインオークションの約定結果の公表）

第32条の18 本機関は、メインオークション募集要綱に基づき、次の各号に掲げる事項を本機関のウェブサイトへの掲載等の方法によって公表する。

- 一 約定総容量
- 二 約定価格
- 三 約定総額
- 四 その他公表すべき事項

（調達オークション実施の場合のメインオークションに関する規定の準用）

第32条の22 第32条の12（第32条の12第1号アを除く。）及び第32条の14から第32条の20までの規定は、調達オークションを実施する場合に準用する。この場合において、「メインオークション」とあるのは、「調達オークション」と読み替えるものとする。

＜容量市場追加オークション募集要綱＞

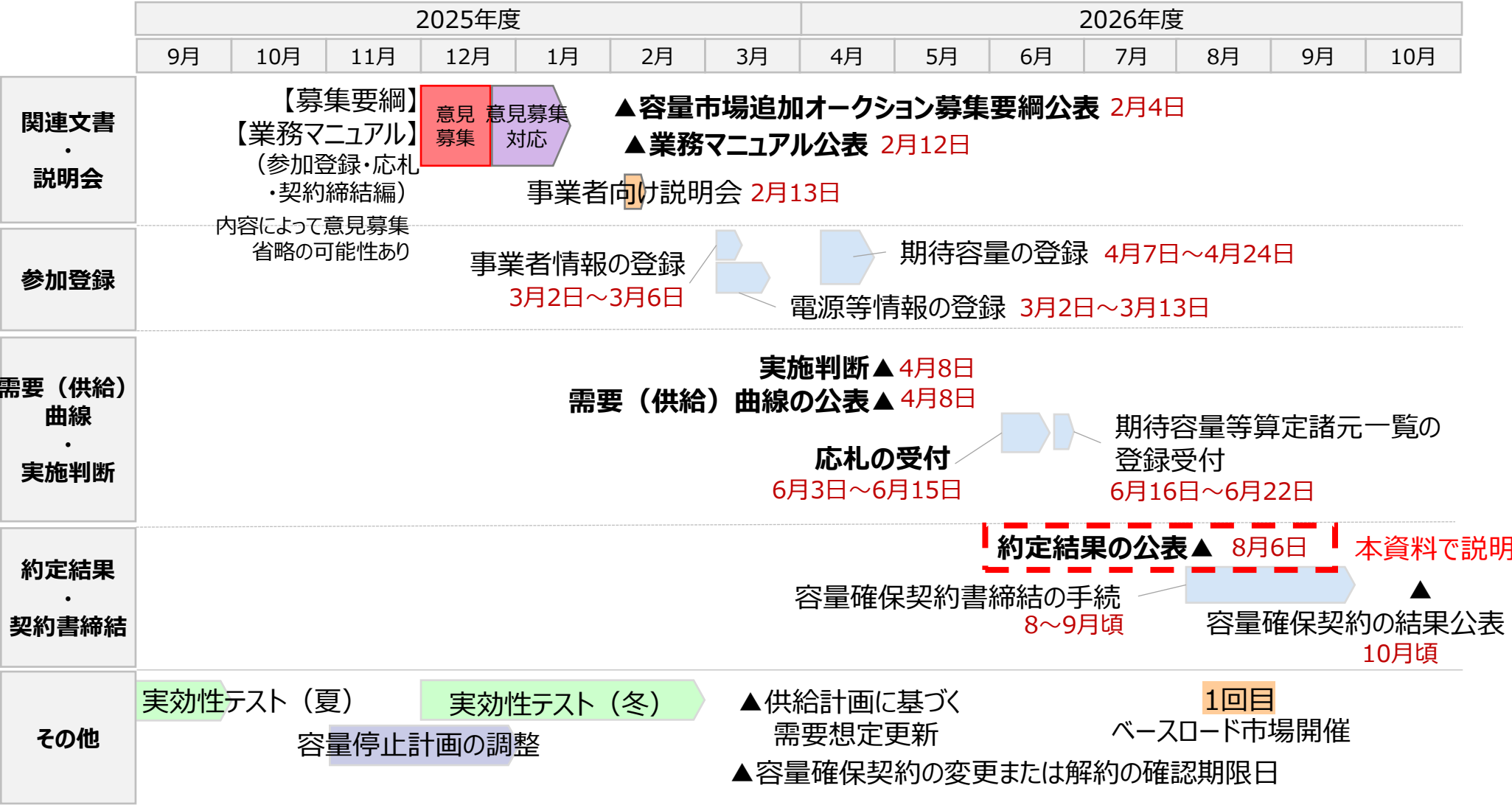
（対象実需給年度：2027年度）

第6章 調達オークション落札電源および約定価格の決定方法

4. 約定結果の公表

調達オークションの約定結果が判明した後、本機関は以下の情報を公表します。公表時期は、「第2章 共通事項 3.追加オークション募集スケジュール」を参照ください。

- ・ 調達オークション開催エリア（全国、各エリア）ごとの約定総容量、約定価格及び約定総額
- ・ 落札電源ごとの、当該電源の容量提供事業者名、電源ID（応札単位の附番（※））、落札容量
※応札した電源等に対して、容量オークションごとに設定



1. はじめに

(4) 用語説明 [1/4]

【全体】

8

用語	説明
実需給年度	容量確保契約に基づき、供給力を提供する年度。
容量オークション	メインオークション、追加オークション（調達/リリースオークション）、および長期脱炭素電源オークションの総称。
メインオークション	メインオークションで募集する供給力を調達するため、実需給年度の4年前に実施する入札。
追加オークション	調達オークションおよびリリースオークションの総称。
調達オークション	追加オークションのひとつで、必要供給力に対し、メインオークションで調達した供給力に不足が認められた場合に、追加で容量提供事業者を募集する入札。
リリースオークション	追加オークションのひとつで、必要供給力に対し、メインオークションで調達した供給力に余剰が認められた場合に、本機関との間で締結した容量確保契約に定められた容量をリリースする容量提供事業者を募集する入札。
長期脱炭素電源オークション	長期脱炭素電源オークション募集要綱で定める供給力を調達するために実施する入札。

1. はじめに

(4) 用語説明 [2/4]

【全体】

9

用語	説明
電源等の区分	オークション参加対象となる電源等の区分であり、以下の4つ。
安定電源	期待容量が1,000kW以上の安定的な供給力を提供するもの。 例：火力、原子力、水力（ただし、調整式または貯水式に限る）、水力（ただし、揚水式で発電可能時間3時間以上に限る）、蓄電池（ただし、放電可能時間3時間以上に限る）、地熱、バイオマス、廃棄物
変動電源 （単独）	期待容量が1,000kW以上の供給力を提供する自然変動電源。 例：水力（ただし、安定的に供給力を提供できるものは除く）、風力、太陽光
変動電源 （アグリ ゲート）	単体の期待容量が1,000kW未満の自然変動電源を組み合わせることにより、期待容量1,000kW以上の供給力を提供するもの。 例：水力（ただし、安定的に供給力を提供できるものは除く）、風力、太陽光
発動指令 電源	デマンド・レスポンス（DR）、安定的に供給力を提供できない期待容量が1,000kW以上の電源、および単体の期待容量が1,000kW未満の電源を組み合わせることにより、期待容量1,000kW以上の供給力を提供するもの。
応札容量	容量オークションに参加する事業者が応札時に提示する、供給力として提供を希望する容量（単位 kW）。
期待容量	設備容量のうち、供給区域の供給力として期待できる容量の最大値で、設備容量から補機等の構内需要電力や外気温による出力低下分等を差し引いたもの。
調整係数	再エネや一般水力、揚水、蓄電池、発動指令電源の供給力評価を表す指標で、供給信頼度の評価において各電源の導入により安定電源の必要量と同等に評価できる供給力を安定電源代替価値として反映したもの。 容量市場において調整係数が設定される電源の調達量（kW価値、期待容量）については、導入量に調整係数を乗じた容量とする。

1. はじめに

(4) 用語説明 [3/4]

【全体】

10

用語	説明
約定処理	全国市場の約定処理において、全国の需要曲線および供給曲線の交点における電源を確認し、需要曲線上の交点における全国の供給信頼度をもとに、約定処理上の市場分断の判断を行う。 約定処理上の市場分断と判断された場合については、約定処理上の市場分断処理を行い、落札電源および約定価格を決定する。 エリアごとに調達オークションを実施する約定処理においては、当該エリアの目標とする供給信頼度に応じて追加処理・減少処理を行い、落札電源および約定価格を決定する。【メインオークション同様】
約定処理上の市場分断	全国市場の約定処理において、全国の需要曲線および供給曲線の交点における供給力をもとに算定した供給信頼度から各エリアの不足ブロック（エリア）・充足ブロック（エリア）について確認を行い、異なるブロック（エリア）が生じた場合については、約定処理上の市場分断と判断する。【メインオークション同様】
約定処理上の市場分断処理	全国市場の約定処理において、不足ブロック（エリア）と判断されたブロック（エリア）では追加処理、充足ブロック（エリア）と判断されたブロック（エリア）では減少処理を行う。 追加処理では、供給曲線上の交点の電源後で当該ブロック（エリア）における応札価格が最も安価な電源を1つ追加し、約定処理上の市場分断の判断、ブロック再構成、エリアプライスの更新を繰り返し行う。追加処理は、不足ブロック（エリア）が解消されるもしくは追加可能な電源がなくなった時点で処理を終了する。 減少処理では、供給曲線上の交点の電源以前で当該ブロック（エリア）における応札価格が最も高価な電源を1つ減少し、約定処理上の市場分断の判断、ブロック再構成、エリアプライスの更新を繰り返し行う。減少処理は、追加処理により増加した供給力と同量を減少した場合もしくは減少により供給信頼度が確保できなくなった時点で処理を終了する。 【メインオークション同様】
供給信頼度	電力供給の信頼性を表す指標で、需要1kWあたりの年間供給力不足電力量（単位：kWh/kW・年）の期待値（EUE）を指標とする。
エリア	一般送配電事業者が託送供給等約款により定める供給区域。
不足エリア・充足エリア	全国の供給信頼度に対して供給信頼度が確保できていないエリアを不足エリアと呼ぶ。また、全国の供給信頼度に対して供給信頼度が確保されているエリアを充足エリアと呼ぶ。
ブロック	約定処理上の市場分断の結果、連系線で直接接続された複数エリアが「不足エリア」もしくは「充足エリア」となった場合にその複数のエリアを1つのブロックと呼ぶ。

用語	説明
エリアプライス	シングルプライスオークションにより約定価格を決定する。 不足ブロック（エリア）は、マルチプライスが適用される場合を除き、当該ブロック（エリア）が充足ブロックとなる際に追加した電源の応札価格もしくは追加処理において最後に追加した電源の応札価格をエリアプライスとし、充足ブロック（エリア）は、当該ブロック（エリア）から減少した電源の次に当該ブロック（エリア）内で高価な電源の応札価格をエリアプライスとする。
マルチプライス	市場競争が限定的となっているおそれがあるエリアにおいて、当該エリアのエリアプライスが隣接するエリアのエリアプライスの1.5倍を超えた場合、隣接するエリアプライスの1.5倍を当該エリアのエリアプライスと設定し、それを上回る価格で応札されている電源等については、それぞれの電源等の応札価格をもって約定価格とする。
経過措置	電源等の区分が安定電源および変動電源（単独）を対象に、容量確保契約金額に対して、「電源等の経過年数に応じた控除」と「入札内容に応じた控除」により、支払額を減額するもの ① 「電源等の経過年数に応じた控除」は、2010年度末以前に建設された電源の容量確保契約金額に対して、一定の控除率（対象実需給年度：2027年度では4.5%）を設定して、支払額を減額する。 ② 「入札内容に応じた控除」は、オークション応札時の応札価格が、約定価格に一定の係数（対象実需給年度：2027年度では89.2%）を乗じた価格以下だった電源の容量確保契約金額に対して、支払額を減額する。 ③ ただし、オークションの個々の電源の約定価格が、同指標価格の50%※以下となった場合は、「電源等の経過年数に応じた控除」と「入札内容に応じた控除」を行わない。 ※同指標価格の50%の値にて円未満を切り捨て ④ また、オークションの個々の電源の約定価格が、同指標価格の50%を超えており、かつ「電源等の経過年数に応じた控除」と「入札内容に応じた控除」の経過措置を適用した際に、同指標価格の50%以下となる場合は、当該電源の経過措置適用後の価格が同指標価格の50%の価格となるように、経過措置による控除額を調整する。 ⑤ ③④については、対象実需給年度が2025年度のメインオークションにおける契約電源では適用しない。
Net CONE （指標価格）	新規発電設備の固定費用から電力量取引やアンシラリーサービスによる収益を差し引いた正味固定費用（CONE = Cost of New Entry）。

2. 2026年度実施 容量市場追加オークション（対象実需給年度：2027年度）の約定結果

12

（1）概要

【追加オークション】

- 2026年度 容量市場追加オークション（対象実需給年度：2027年度）は、以下の結果となった。
 - 約定総容量※1 : 458 万kW (4,578,545 kW)
 - エリアプライス
 - 北海道 : 10,361 円/kW
 - 東北/東京/中部/北陸/関西/中国/四国/九州 : 10,361 円/kW
 - 経過措置を踏まえた約定総額 : 425 億円 (42,514,195,797円)
 - 特記事項
 - ✓ 約定処理の過程※2で北海道とその他のブロック（エリア）となった。
 - ✓ 発動指令電源の調整係数反映前※3の応札容量は、メインオークションにおける応札上限容量※4を超過しなかったため、全電源を落札候補として約定処理を行った。
 - 落札電源一覧（応札事業者名、電源ID※5、落札容量[kW]）については別紙に示すとおり。

※1 追加オークション実施判断時に確保済みの供給力（全国計で1億8,822万kW）を含む総容量は1億9,280万kW。

※2 約定処理においては、全国市場における全国の供給信頼度および各エリアの供給信頼度にもとづき約定処理上の市場分断を行う。
約定処理上の市場分断については「＜参考＞ 約定処理上の市場分断について（p.19）」を参照。

※3 発動指令電源の調整係数については「（5）発動指令電源の調整係数について（p.17）」を参照。

※4 調達オークションにおける応札上限容量は、各エリアにおける「追加オークション開催前に公表される最新の供給計画における実需給年度（第2年度）のH3需要（離島除き）」の1%。追加オークションの開催判断前までに発動指令電源の市場退出があった場合は、市場退出した部分を追加。応札上限容量は調整係数反映前の応札容量で判定。

※5 応札した電源等に対して、容量オークションごとに設定する。

2. 2026年度実施 容量市場追加オークション（対象実需給年度：2027年度）の約定結果

（2）約定総容量、約定価格、約定総額

【追加オークション】

13

<約定結果>

	約定総容量	約定総額（経過措置控除後）
全国	4,578,545 kW	42,514,195,797円

<約定結果（エリア）>

エリア	エリアプライス	エリア毎の約定容量	エリア毎の約定総額 （経過措置控除後）
北海道	10,361 円/kW	28,792 kW	285,762,632 円
東北	10,361 円/kW	294,181 kW	2,933,053,562 円
東京	10,361 円/kW	427,859 kW	4,148,897,393 円
中部	10,361 円/kW	1,094,291 kW	10,181,852,881 円
北陸	10,361 円/kW	252,584 kW	2,489,732,134 円
関西	10,361 円/kW	139,099 kW	1,422,514,285 円
中国	10,361 円/kW	771,401 kW	7,014,322,911 円
四国	10,361 円/kW	103,081 kW	1,017,032,165 円
九州	10,361 円/kW	1,467,257 kW	13,021,027,834 円

2. 2026年度実施 容量市場追加オークション（対象実需給年度：2027年度）の約定結果

（3）約定総容量、約定総額

【全体】

14

- 追加オークションの結果を反映した、容量市場（メインオークション・追加オークション）におけるエリア別の約定総容量、約定総額は下記のとおり。

※メインオークションの約定分については、2026年3月末時点での契約容量・契約金額で集計。

<約定結果>

	約定総容量	約定総額（経過措置控除後）
全国	167,402,399 kW	1,317,211,941,102 円

<約定結果（エリア）>

エリア	エリア毎の約定総容量	エリア毎の約定総額 （経過措置控除後）
北海道	5,105,417 kW	58,946,957,688 円
東北	17,697,963 kW	139,076,090,825 円
東京	54,327,585 kW	454,010,809,402 円
中部	23,759,258 kW	165,372,603,211 円
北陸	4,742,361 kW	31,944,236,666 円
関西	27,881,273 kW	186,172,977,715 円
中国	8,947,009 kW	60,975,890,628 円
四国	7,899,080 kW	52,207,203,101 円
九州	17,042,453 kW	168,505,171,866 円

2. 2026年度実施 容量市場追加オークション（対象実需給年度：2027年度）の約定結果

（4）一般送配電事業者・小売電気事業者が負担する容量拠出金（試算）

【全体】

15

- 追加オークション（対象実需給年度：2027年度）と長期脱炭素電源オークション（応札年度：2023～2025年度）の約定結果に基づく、実需給2027年度におけるエリア別の容量拠出金（試算）は、下記のとおり。
- ※「電力・ガス基本政策小委員会制度検討作業部会 第十三次中間とりまとめ」（令和5年8月）に基づき、送配電事業者の負担をH3需要の8%相当分とし、小売電気事業者の負担を一般送配電事業者負担分と経過措置控除分を差し引いたものとして試算※1。
- ※長期脱炭素電源オークション分は、他市場収益の推定還付額を控除した約定総額のうち2027年度の容量拠出金を試算。

エリア	容量拠出金（試算）				（参考） H3需要想定※2
	一般送配電事業者		小売電気事業者		
	メイン・追加	長期	メイン・追加	長期	
北海道	53.8 億円	1.3 億円	545.0 億円	15.1 億円	508.1 万kW
東北	97.0 億円	3.3 億円	1,058.2 億円	40.9 億円	1,340.3 万kW
東京	422.5 億円	13.9 億円	4,329.5 億円	166.1 億円	5,524.0 万kW
中部	148.3 億円	6.2 億円	1,598.4 億円	73.9 億円	2,370.1 万kW
北陸	29.9 億円	1.3 億円	331.6 億円	15.6 億円	490.0 万kW
関西	164.6 億円	6.9 億円	1,744.9 億円	82.5 億円	2,693.2 万kW
中国	61.1 億円	2.6 億円	664.8 億円	31.4 億円	999.8 万kW
四国	28.4 億円	1.2 億円	312.3 億円	14.7 億円	464.0 万kW
九州	143.8 億円	3.8 億円	1,438.1 億円	45.8 億円	1,571.2 万kW
小計	1,149.3 億円	40.3 億円	1兆2,022.9 億円	485.9 億円	1億5,960.7 万kW
合計	1,189.6 億円		1兆2,508.8 億円		

※1 算定方法については「＜参考＞容量拠出金の算定方法（p.20～21）」を参照。

※2 追加オークション開催前に公表される最新の供給計画における実需給年度（第2年度）のH3需要（離島除き）。

2. 2026年度実施 容量市場追加オークション（対象実需給年度：2027年度）の約定結果

（5）需要曲線と供給曲線

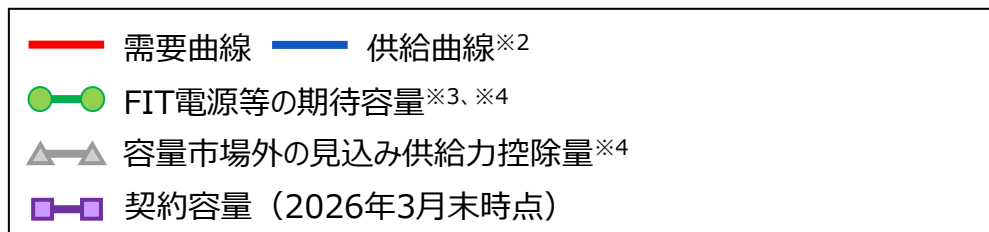
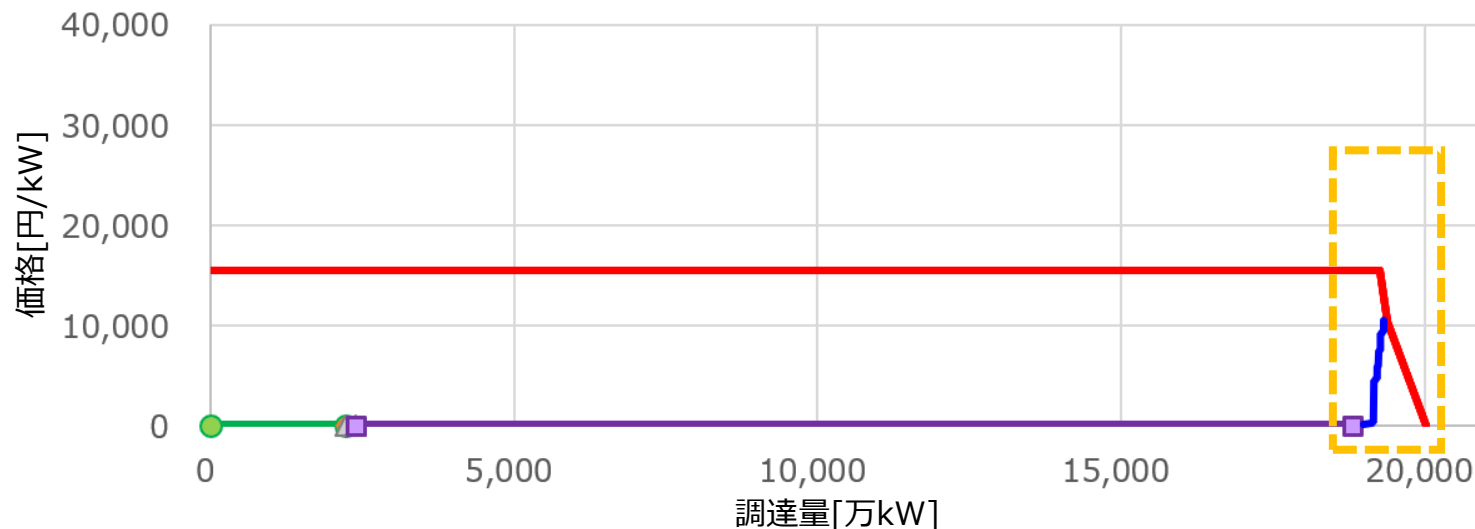
【追加オークション】

16

■ 需要曲線に対する応札状況（供給曲線※1）は、下記のとおり。

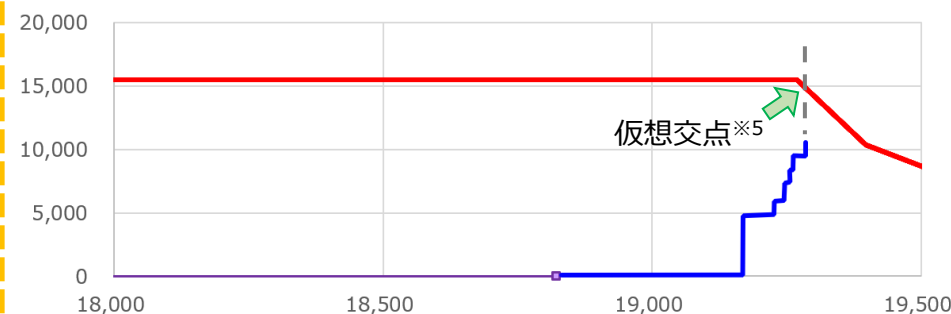
※1 供給曲線を公表するに際して、個社情報を特定できないようにするため、スムージング処理を行った。なお、米国PJMを含め、諸外国における供給曲線の公表も、スムージング処理後の供給曲線を公表している。

<2026年度実施 容量市場追加オークションの供給曲線（スムージング処理後）>



- ※2 発動指令電源の応札容量については、調整係数反映後の容量としている。
 ※3 応札後に織込む石炭とバイオマスの混焼を行うFIT電源の供給力を含む。
 ※4 供給曲線に織込む各容量については「<参考> 追加オークション実施判断時に確保している供給力について（p.18）」を参照。
 ※5 需要曲線と供給曲線が交差しえない場合、供給曲線の終端の直上に位置する需要曲線上の点を「仮想交点」とし、約定処理での「交点」は「仮想交点」を用いる。

（約定価格付近の拡大図）



2. 2026年度実施 容量市場追加オークション（対象実需給年度：2027年度）の約定結果

（6）発動指令電源の調整係数

【追加オークション】

17

- 発動指令電源の調整係数は、メインオークション時に事後的に算定した調整係数を用いた。発動指令電源の応札容量の調整係数反映前後の容量は下記のとおり。
- 発動指令電源については、応札容量に調整係数を反映した容量にて約定処理を行った。また、応札容量に調整係数を反映した容量が 1,000kW 未満となる応札は無かった。

※発動指令電源の調整係数については、「＜参考＞発動指令電源の調整係数について（p.22～p.23）」を参照。

エリア	発動指令電源の調整係数[%]
	事後的に算定
北海道	56.6402875075175
東北	100
東京	
中部	
北陸	
関西	
中国	
四国	
九州	92.8091197345594

発動指令電源の応札容量[kW]	
調整係数反映前	調整係数反映後 (約定処理に使用)
31,168	17,653
109,673	同左
76,661	
14,788	
0	
110,446	
83,400	
48,581	
10,162	9,429
(計) 484,879	470,631

(計)

- 追加オークション実施判断時に確保済の供給力については、追加オークションの開催を決定した際の説明資料において公表している。
 - 容量市場の契約容量は2026年3月末時点の容量を織り込んだ。
 - 石炭とバイオマスの混焼を行うFIT電源については、FIT制度の適用を想定して応札しなかった電源、および応札した結果で非落札となった電源について、応札後にFIT電源等の期待容量に織り込んだ。
 - 容量市場外の供給力（ブラックスタート電源（BS電源）の需給ひっ迫時に活用可能な供給力を含む）として見込まれる状況を考慮して、必要供給力から一定量を控除して容量市場で調達することとした。

		期待容量／供給力
契約容量 (2026年3月末時点)	メインオークションでの契約容量	1億6,745万kW
	市場退出容量等	▲462万kW
	長期脱炭素電源オークションでの契約容量 (実需給年度2027年度が制度適用期間に含まれる供給力)	142万kW
FIT電源等の期待容量	太陽光、風力、水力、地熱、バイオマス	1,766万kW
	石炭とバイオマスの混焼を行うFIT電源の供給力 (応札後に織込む)	451万kW
容量市場外の見込み供給力控除量	一定の蓋然性のある供給力：120万kW BS電源のひっ迫時に活用できる供給力：60万kW 事後監視結果に伴い見込まれる供給力：0.3万kW	180.3万kW

- 全エリアにおいて調達オークションを実施し、需要曲線と供給曲線の交点における全国の供給信頼度は0.088 kWh/kW・年となった。
※ 需要曲線と供給曲線が交差しない場合、供給曲線の終端の直上に位置する需要曲線上の点を「仮想交点」とし、約定処理での「交点」は「仮想交点」を用いる。
- 全国の供給信頼度をもとに約定処理上の市場分断の判断を行う全国市場の約定処理後に、**北海道が不足エリア**、**その他が充足ブロック**となった。
- 不足エリアで追加できる電源がないため、約定処理を終了した。

エリア	全国約定処理後	追加処理(結果)	
	供給信頼度	追加量	供給信頼度
北海道	0.265	(なし)	0.265
東北	0.001		0.001
東京	0.019		0.019
中部	0.025		0.025
北陸	0.020		0.020
関西	0.021		0.021
中国	0.020		0.020
四国	0.011		0.011
九州	0.037		0.037

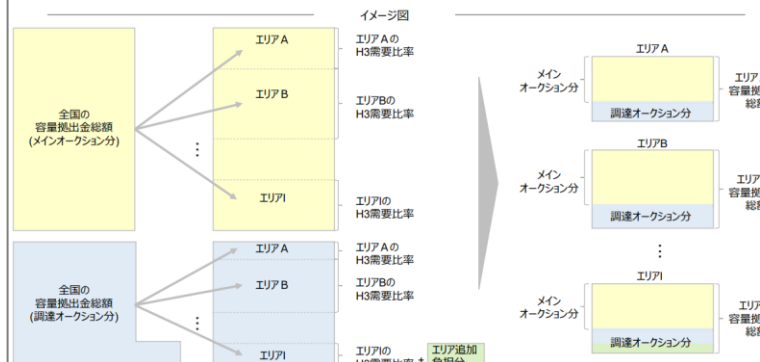
単位：
追加量[万kW]
供給信頼度[kWh/kW・年]

※ 表の背景を、不足エリアについては赤、充足エリアについては青で着色。

- 調達オークションで市場が分断される場合における容量引出金の請求額は、以下の手順で算定を行う。

① エリア別の容量引出金総額の算定

- エリア別容量引出金総額は、メインオークション約定結果としての容量引出金総額及び調達オークション約定結果としての容量引出金総額をエリア別のH3需要比率※1に応じて、各エリアに配分することで算定します。

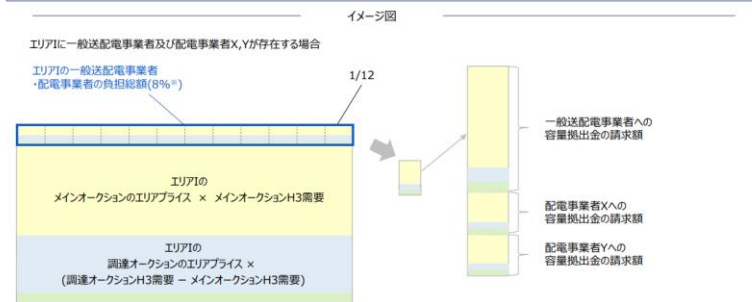


電力広域的運営推進機関
Organization for Cross-regional Coordination of
Transmission Operators, JAPAN

※：メインオークション分は供給計画第5年度H3需要、調達オークション分は供給計画第2年度H3需要を使用します。

② 一般送配電事業者の負担額と請求額の算定

- 一般送配電事業者・配電事業者の負担総額は、メインオークションのエリアプライスとH3需要を掛け合わせた値に、調達オークションのエリアプライスに調達オークションH3需要からメインオークションのH3需要を差し引いた値を掛け合わせた値を定した値※1に一定割合※2を乗じることで算定します。また請求額については、一般送配電事業者・配電事業者の負担総額を12等分し、各一般送配電事業者・配電事業者の配分比率に応じて毎月の請求額を算定します。

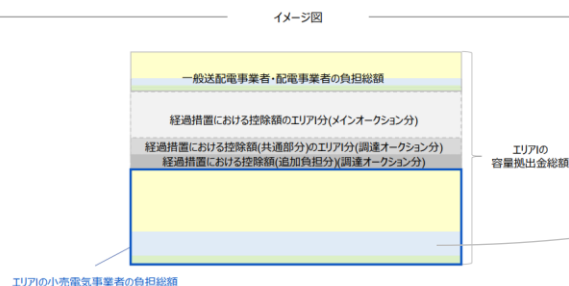


電力広域的運営推進機関
Organization for Cross-regional Coordination of
Transmission Operators, JAPAN

※1：調達オークションH3需要の値がメインオークションH3需要の値以上の場合の計算方法です。調達オークションH3需要の値がメインオークションH3需要の値未満の場合は、調達オークションのH3需要 × メインオークションのエリアプライス × 一定割合となります。
※2：送配電負担（託送負担）について、本資料では一定割合を8%として試算しています。

③ 小売電気事業者の負担総額の算定

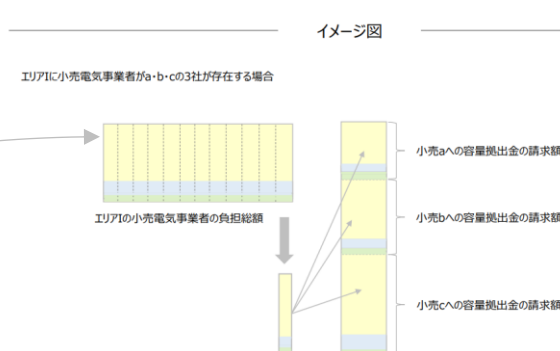
- 小売電気事業者の負担総額は、当該エリアの容量引出金総額から一般送配電事業者・配電事業者の負担総額と経過措置における控除額を減算することで算定します。



電力広域的運営推進機関
Organization for Cross-regional Coordination of
Transmission Operators, JAPAN

④ 各小売電気事業者への請求額の算定

- 各小売電気事業者への請求額は、エリア毎の小売電気事業者の容量引出金の負担総額を12等分し、小売各社の配分比率に応じて毎月の請求額を算定します。

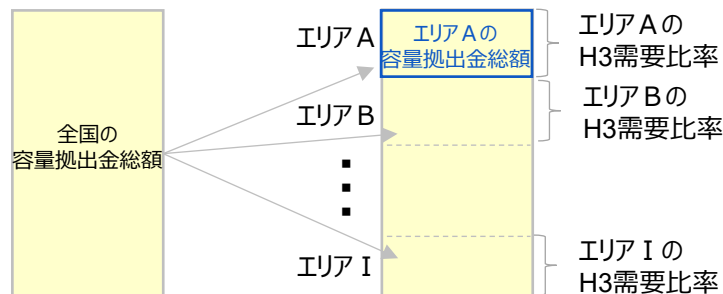


電力広域的運営推進機関
Organization for Cross-regional Coordination of
Transmission Operators, JAPAN

- 長期脱炭素電源オークションにおいて、市場が分断される場合における容量拠出金の請求額は、以下の手順で算定を行う。

① エリア別の容量拠出金総額の算定

全国の容量拠出金の総額※1をエリア別のH3需要※2比率に応じて、各エリアに配分します。



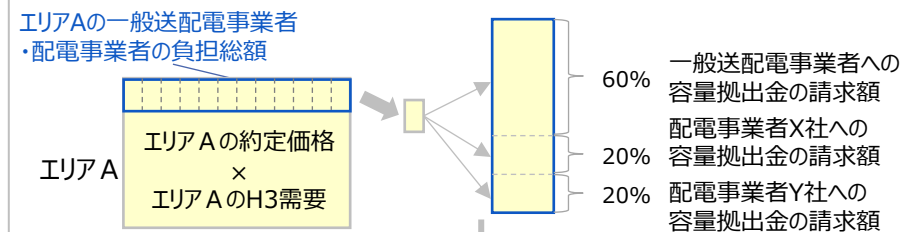
※1 当該実需給年度に本制度の適用が開始している電源等の落札価格、落札容量を基に算定

※2 当該実需給年度の4年前に行われる当該実需給年度向けのメインオークションで用いるH3需要

② 一般送配電事業者・配電事業者の負担総額と請求額の算定

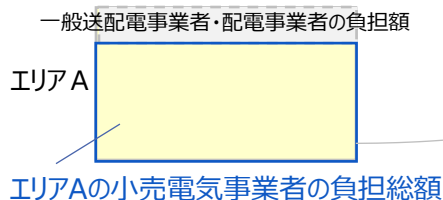
エリアに配分された容量拠出金に、メインオークションにおける当該年度の送配電事業者の負担割合※3を乗じることで、エリア毎の送配電事業者の負担総額を算定し、負担総額を12等分し、各送配電事業者の配分比率※4に応じて毎月の請求額を算定します。

（例）エリアAに一般送配電事業者及び配電事業者X,Yが存在し、配分比率を60%、20%、20%とした場合



③ 小売電気事業者の負担総額の算定

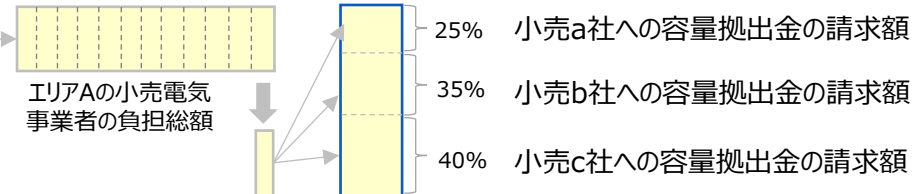
当該エリアの拠出金の総額から送配電事業者の負担総額を減算することで、エリア毎の小売電気事業者の負担総額を算定します。



④ 各小売電気事業者への請求額の算定

- ✓ エリア毎の小売電気事業者の容量拠出金の負担総額を12等分し、小売各社の配分比率に応じて毎月の請求額を算定します。
- ✓ 但し、配分比率は、前年度の年間（夏季/冬季）のピーク時の電力（kW）の構成比を基礎とし、当該年度の各月の小売電気事業者のシェア変動を加味（年間ピークの託送契約電力からの変化率に基づいて補正）します。

エリアAに小売電気事業者がa・b・cの3社が存在し、小売各社の配分比率を25%、35%、40%とした場合



※3 メインオークションのエリアの送配電事業者の負担総額※5÷メインオークションのエリアの負担総額。

※4 当該年度の4年前に行われる当該実需給年度向けのメインオークションで用いるH3需要に占める事業者毎の比率。

※5 エリアのメインオークションの約定価格×メインオークションで用いるH3需要×8%（2025年度以降の負担比率）。

- 発動指令電源が一定の導入量を超える場合には、供給信頼度を確保する観点から**調整係数の設定が必要**であると整理された。
- 発動指令電源の調整係数は、応札上限容量を設定※1した上で実際の**メインオークションにおける応札容量に追加オークションの導入量を反映した容量をもとに調整係数を事後的に算定し、調整係数を反映後の応札容量※2にて約定処理を行い落札電源を決定**する。

※1 対象実需給年度2027年度の応札上限容量はメインオークション4%、追加オークション1%に設定。

※2 応札容量に調整係数を反映した容量が1,000kW未満となる場合は、当該電源等については非落札電源とする。

第62回 制度検討
作業部会資料より

第38回 容量市場
の在り方等に関する
検討会資料より

発動指令電源の募集量について

- 第2回メインオークションの約定結果においては、発動指令電源の調達量上限であるH3需要の3%（475万kW）を超過する566万kWの応札があった。
- 今後、再生可能エネルギーが更に増加していき、発動指令電源として期待されるDRを含めたアグリゲータの組成や市場参入が期待される中で、更なる市場参加者の拡大を促すことが望ましいと考えられるが、DRの促進と供給信頼度のバランスについて、以下の点も踏まえて検討する必要がある。
 - ① 調整係数の在り方
一定の募集量を超える場合には、供給信頼度を確保する観点からは調整係数の設定が必要。
 - ② 想定導入量
調整係数を事前に決定する場合は、導入量も事前に想定する必要
 - ③ 発動指令電源の能力
実効性テストや実需給の運用を迎えていない状況で、募集量を増加させるべきか。
 - ④ 追加オークションにおける調達
メインオークションと追加オークションの配分、追加オークションの実施の在り方をどのように考えるか。
 - ⑤ 同一価格の応札が複数存在した場合の約定処理
同一価格の応札で調達量上限を超えた場合の約定処理について。

3. メインオークション募集要綱（案）と約款（案）の主なポイント ②発動指令電源の募集量等（1／4）

10

2022年度オークションに向けた検討

■ 発動指令電源の募集量等

- 募集量等の設定については、現行の4%から全体として5%に拡充する。
（メインオークション4%+追加オークション1%）
- 発動指令電源は、応札容量に調整係数を乗じた容量により約定処理を実施する。
- 調整係数の設定方法については、事後的に算定することとする。

募集要綱・約款への反映内容

- メインオークションにおける発動指令電源の応札上限容量、約定方法の表記を変更【募集要綱】
- 調整係数の公表時期について、メインオークションの約定結果公表日に公表することを記載【募集要綱】

- 調整係数が適用される電源の調達量（kW価値、期待容量）は、導入量に調整係数を反映した容量となる。
- 約定した発動指令電源については、**調整係数を反映後の応札容量が契約容量**となるが、発動指令が発令された場合において、**調整係数を反映前の応札容量（導入量）を提供※する必要**がある。

※ 発動指令電源のアセスメントでは、調整係数反映前の容量の供給力を3時間継続して提供することでリクワイアメント達成となる。

第37回 容量市場
の在り方等に関する
検討会資料より

第37回 容量市場
の在り方等に関する
検討会資料より

4. 発動指令電源の信頼度評価について

③想定導入量と調達量の関係について

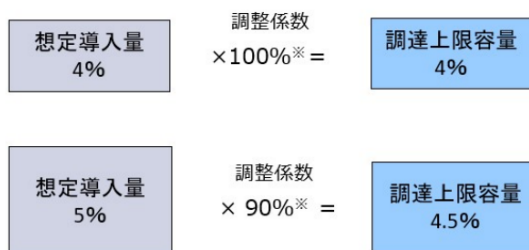
14

- 容量市場で調達する供給力において、調達量（kW価値、期待容量）は、調整係数が設定される電源については、導入量に調整係数を乗じた値となる。
- 想定導入量を増加させた場合、調整係数が100%未満となることで導入量と調達量（kW価値、期待容量）が等価とならないことがある。

<調達量（kW価値、期待容量）>

$$\text{調達量} = \text{導入量} \times \text{調整係数}$$

<想定導入量と調達上限容量のイメージ>



※調整係数はイメージ

第33回容量市場
の在り方等に関する
検討会資料より

4. 発動指令電源の信頼度評価について

①供給信頼度の算定方法について

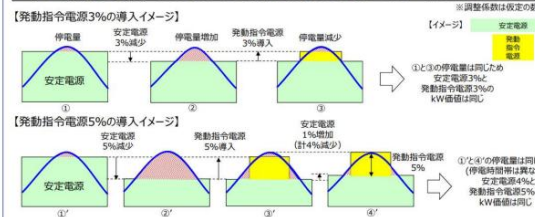
9

- 供給信頼度評価における再エネや一般水力、発動指令電源の評価方法は、国の審議会や調整力及び需給バランス評価等に関する委員会で整理され、安定電源代替価値として評価が行われている。
- また、容量市場に用いられる年間調整係数においても、従来の再エネの供給信頼度評価と同様に、追加設備量の減少に寄与できる量を調整係数に反映させることとしている。
- なお、発動指令電源に調整係数が用いられた場合は、発動時において、約定した契約量ではなく導入量を提供することとなる。

4. 発動指令電源の信頼度評価について

第33回容量市場
の在り方等に関する
検討会資料より

- 信頼度評価の結果を以下のイメージ図で説明すると、発動指令電源3%の導入イメージでは、安定電源を3%減少させることが可能なため、kW価値は同じとなり調整係数100%と評価される。
- 次に、発動指令電源5%の導入イメージでは、安定電源を4%しか減少させることができないため、調整係数は80%と評価される。（ $4 \div 5 \times 100 = 80$ ）
- ※調整係数は、安定電源を発動指令電源の導入量と置き換えた際、停電量が同じになるそれぞれの容量から算定
- なお、発動指令電源5%に調整係数を乗じた結果、契約容量は4%となるが、リクワイアメントは5%の供給力を提供することとなる。（5%の供給力を提供することにより、4%分のkW価値が得られるため）



- 2026年度実施 容量市場追加オークション（対象実需給年度：2027年度）の約定結果について、現時点の集計結果に基づき、以下の項目の公表を行う。

- （1）供給信頼度
- （2）電源等の応札容量
- （3）応札容量と落札容量（落札率）
- （4）発電方式別の応札容量
- （5）落札されなかった電源の応札容量
- （6）一般送配電事業者・小売電気事業者が負担する容量拠出金（試算）
- （7）応札価格の加重平均
- （8）応札価格の分布
- （9）追加オークションの約定結果公表時点の確保している供給力
- （10）追加オークションの約定結果公表時点の調整機能あり電源の約定総容量

3. オークション結果の集計・公表

(1) 供給信頼度 [1/2]

【追加オークション】

25

- 約定処理の結果、全国の供給信頼度は0.088 kWh/kW・年、調達オークション後に確保している供給力における供給信頼度とブロック構成は下記のとおりとなった。
- 以降では、ブロック構成に合わせて、北海道とそれ以外のブロック（エリア）で区分した集計も行う。

	供給信頼度 [kWh/kW・年]
目標とする供給信頼度	0.059
全国の供給信頼度＜需要曲線と供給曲線の交点＞	0.088

	エリア	供給信頼度 [kWh/kW・年]	想定需要※1	確保している供給力※2
ブロック1	北海道	0.265	508.1 万kW	618 万kW
	東北	0.001	1,340.3 万kW	2,192 万kW
ブロック2	東京	0.019	5,524.0 万kW	5,973 万kW
	中部	0.025	2,370.1 万kW	2,661 万kW
	北陸	0.020	490.0 万kW	661 万kW
	関西	0.021	2,693.2 万kW	2,991 万kW
	中国	0.020	999.8 万kW	1,309 万kW
	四国	0.011	464.0 万kW	897 万kW
	九州	0.037	1,571.2 万kW	1,977 万kW
合計			1億5,960.7 万kW	1億9,280 万kW

※1 追加オークション開催前に公表される最新の供給計画における実需給年度（第2年度）のH3需要（離島除き）。

※2 追加オークション実施判断時に確保済みの供給力（全国計で1億8,822万kW）を含む。

3. オークション結果の集計・公表

再掲

26

(1) 供給信頼度 [2/2]

【追加オークション】

- 全エリアにおいて調達オークションを実施し、需要曲線と供給曲線の交点における全国の供給信頼度は0.088 kWh/kW・年となった。
※ 需要曲線と供給曲線が交差しない場合、供給曲線の終端の直上に位置する需要曲線上の点を「仮想交点」とし、約定処理での「交点」は「仮想交点」を用いる。
- 全国の供給信頼度をもとに約定処理上の市場分断の判断を行う全国市場の約定処理後に、**北海道が不足エリア**、**その他が充足ブロック**となった。
- 不足エリアで追加できる電源がないため、約定処理を終了した。

エリア	全国約定処理後	追加処理(結果)	
	供給信頼度	追加量	供給信頼度
北海道	0.265	(なし)	0.265
東北	0.001		0.001
東京	0.019		0.019
中部	0.025		0.025
北陸	0.020		0.020
関西	0.021		0.021
中国	0.020		0.020
四国	0.011		0.011
九州	0.037		0.037

単位：
追加量[万kW]
供給信頼度[kWh/kW・年]

※ 表の背景を、不足エリアについては赤、充足エリアについては青で着色。

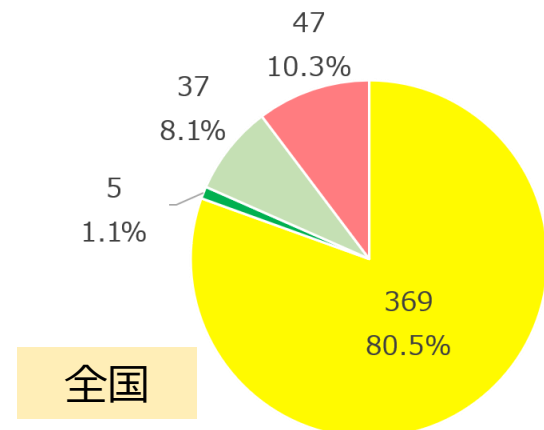
3. オークション結果の集計・公表

(2) 電源等の応札容量

【追加オークション】

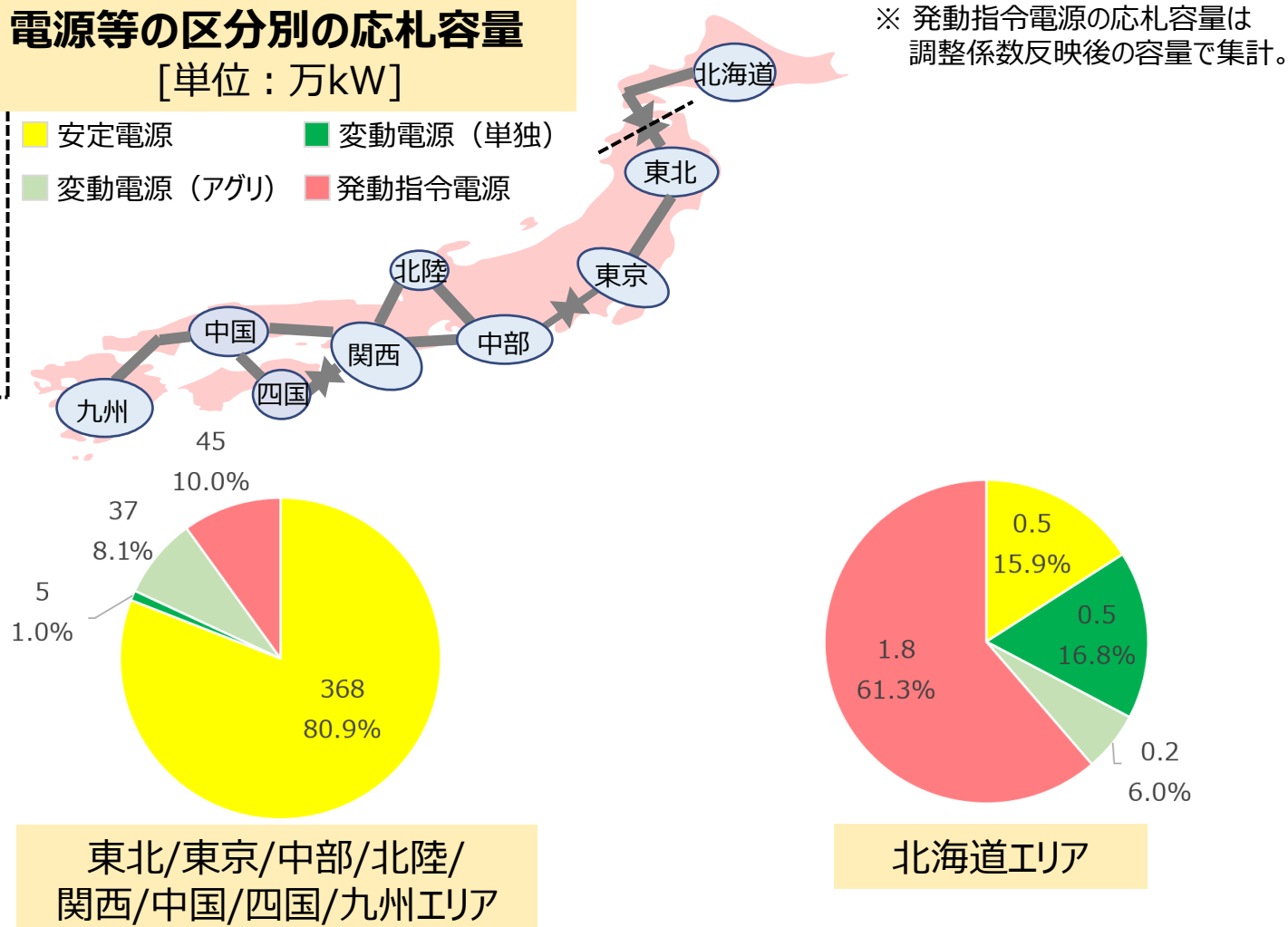
27

- 全国の応札容量は合計で458万kW、そのうち電源等の区分別に、安定電源が 369万kW (80.5%)、変動電源 (単独) が 5万kW (1.1%)、変動電源 (アグリゲート) が 37万kW (8.1%)、発動指令電源が 47万kW (10.3%) であった。



電源等の区分別の応札容量
[単位：万kW]

■ 安定電源 ■ 変動電源 (単独)
■ 変動電源 (アグリ) ■ 発動指令電源



3. オークション結果の集計・公表

(3) 応札容量と落札容量（落札率）

【追加オークション】

28

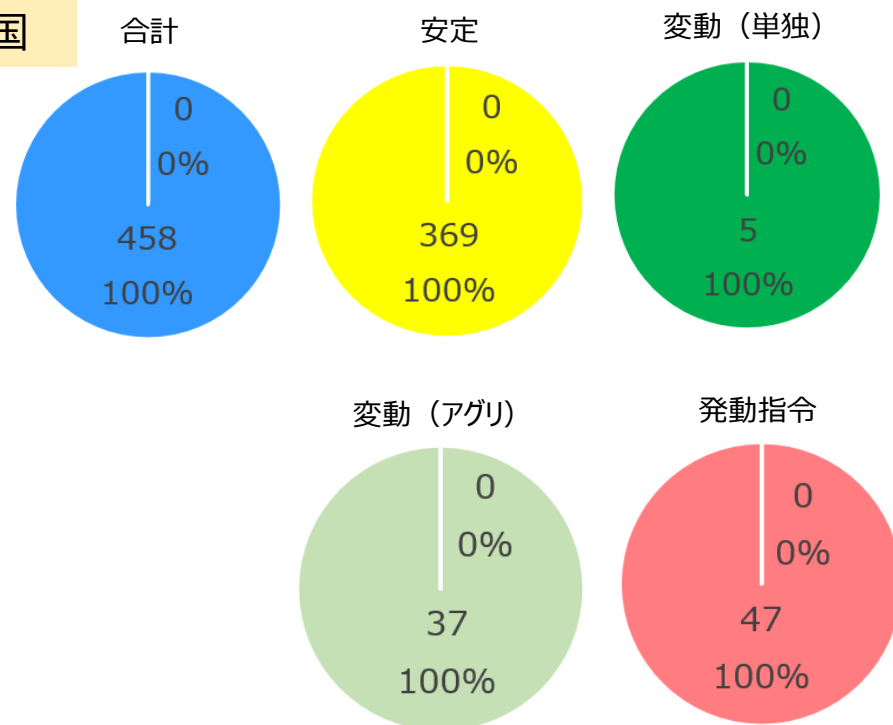
- 全国の電源等の区分別の落札率は、安定電源・変動電源（単独）・変動電源（アグリゲート）・発動指令電源、全体の落札率はいずれも100%だった。

※ 発動指令電源の応札容量は調整係数反映後の容量で集計。

電源等の区分別の落札率

[単位：万kW、%]

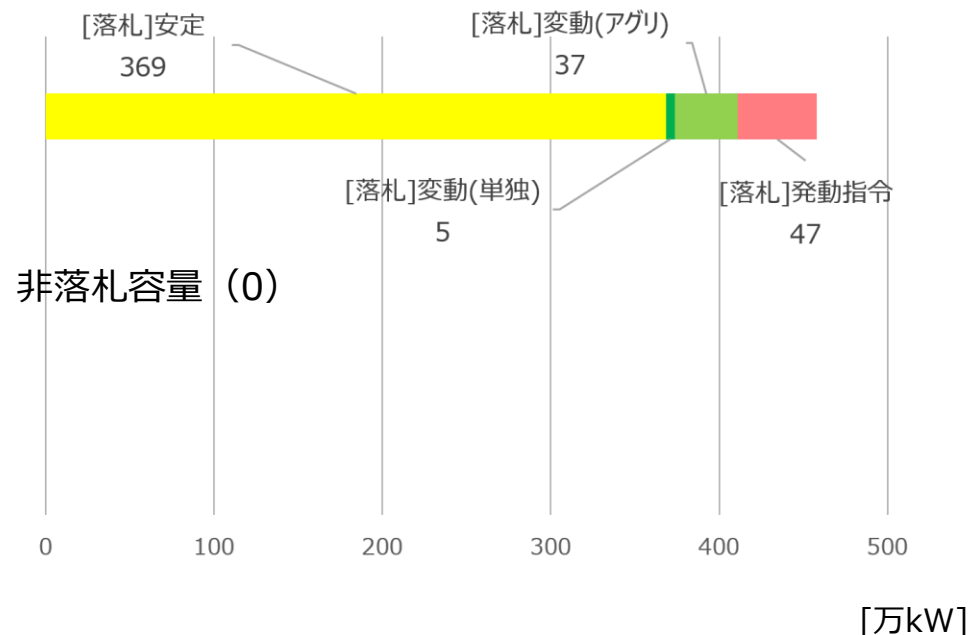
全国



電源等の区分別の落札容量

[単位：万kW]

落札容量 (458万kW)



3. オークション結果の集計・公表

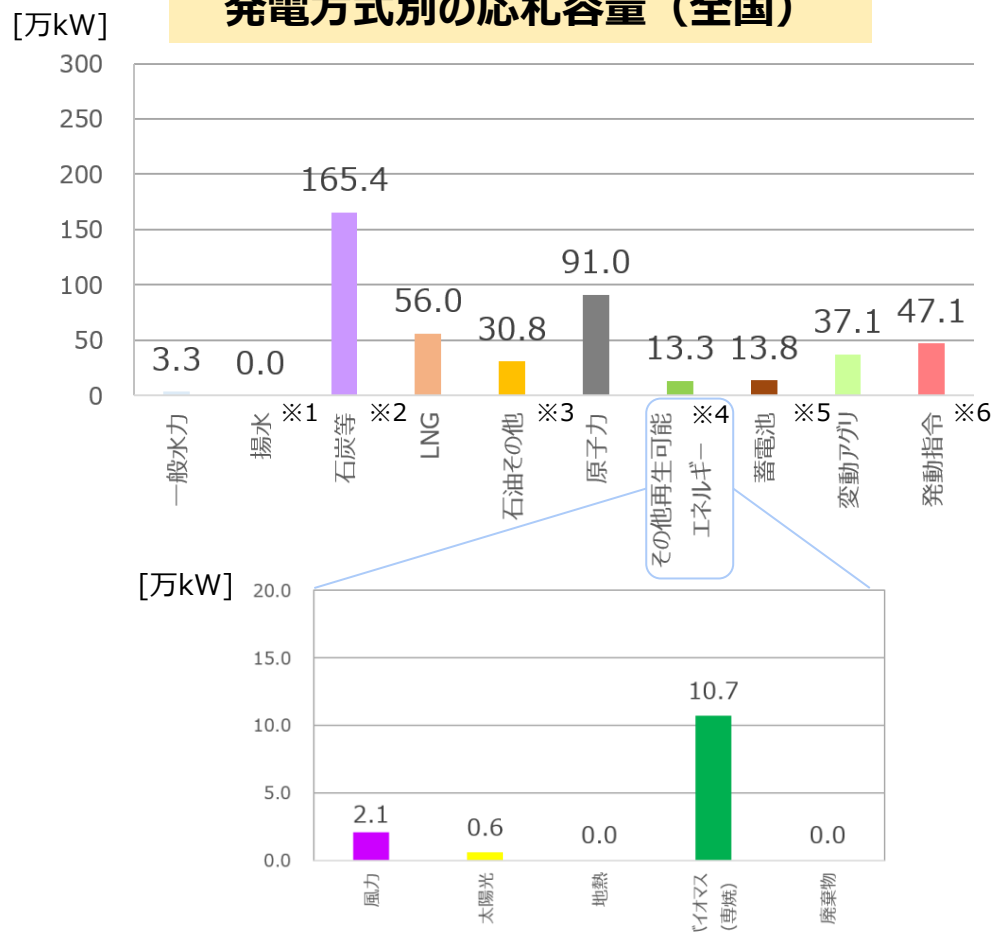
(4) 発電方式別の応札容量

【追加オークション】

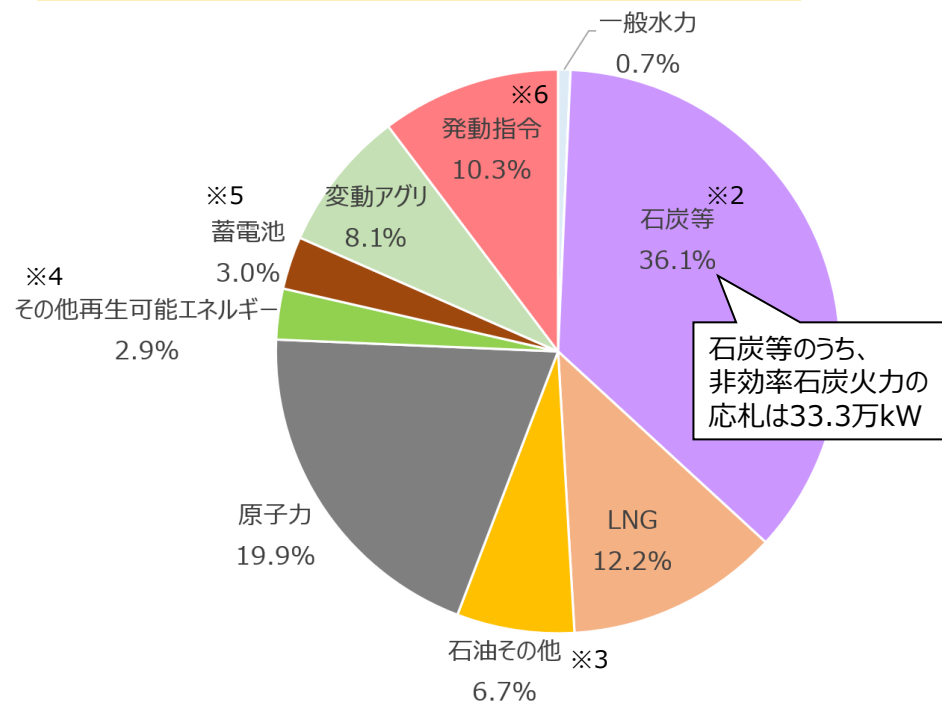
29

- 全国の発電方式別の応札容量とその比率は、一般水力:3.3万kW (0.7%)、石炭等:165.4万kW (36.1%)、LNG:56.0万kW (12.2%)、石油その他:30.8万kW (6.7%)、原子力:91.0万kW (19.9%)、その他再生可能エネルギー:13.3万kW (2.9%)、蓄電池:13.8万kW (3.0%)、変動(アグリ):37.1万kW (8.1%)、発動指令:47.1万kW (10.3%)であった。

発電方式別の応札容量 (全国)



発電方式別の応札容量比率 (全国)



- ※1 揚水：純揚水と混合揚水を合算。
 ※2 石炭等：石炭とバイオマス混焼を合算。
 ※3 石油その他：石油・LPG・歴青質混合物・その他ガスを合算。
 ※4 その他再生可能エネルギー：太陽光・風力・地熱・バイオマス専焼・廃棄物を合算。
 ※5 蓄電池：安定電源で蓄電池と登録されたものを集計。
 ※6 発動指令電源の応札容量は調整係数反映後の容量で集計。

3. オークション結果の集計・公表

(5) 落札されなかった電源の応札容量

【追加オークション】

30

- 落札されなかった電源はなし。

3. オークション結果の集計・公表

再掲

(6) 一般送配電事業者・小売電気事業者が負担する容量拠出金（試算）

【全体】

- 追加オークション（対象実需給年度：2027年度）と長期脱炭素電源オークション（応札年度：2023～2025年度）の約定結果に基づく、実需給2027年度におけるエリア別の容量拠出金（試算）は、下記のとおり。
※「電力・ガス基本政策小委員会制度検討作業部会 第十三次中間とりまとめ」（令和5年8月）に基づき、送配電事業者の負担をH3需要の8%相当分とし、小売電気事業者の負担を一般送配電事業者負担分と経過措置控除分を差し引いたものとして試算※1。
※長期脱炭素電源オークション分は、他市場収益の推定還付額を控除した約定総額のうち2027年度の容量拠出金を試算。

エリア	容量拠出金（試算）				（参考） H3需要想定※2
	一般送配電事業者		小売電気事業者		
	メイン・追加	長期	メイン・追加	長期	
北海道	53.8 億円	1.3 億円	545.0 億円	15.1 億円	508.1 万kW
東北	97.0 億円	3.3 億円	1,058.2 億円	40.9 億円	1,340.3 万kW
東京	422.5 億円	13.9 億円	4,329.5 億円	166.1 億円	5,524.0 万kW
中部	148.3 億円	6.2 億円	1,598.4 億円	73.9 億円	2,370.1 万kW
北陸	29.9 億円	1.3 億円	331.6 億円	15.6 億円	490.0 万kW
関西	164.6 億円	6.9 億円	1,744.9 億円	82.5 億円	2,693.2 万kW
中国	61.1 億円	2.6 億円	664.8 億円	31.4 億円	999.8 万kW
四国	28.4 億円	1.2 億円	312.3 億円	14.7 億円	464.0 万kW
九州	143.8 億円	3.8 億円	1,438.1 億円	45.8 億円	1,571.2 万kW
小計	1,149.3 億円	40.3 億円	1兆2,022.9 億円	485.9 億円	1億5,960.7 万kW
合計	1,189.6 億円		1兆2,508.8 億円		

※1 算定方法については「＜参考＞容量拠出金の算定方法（p.20～21）」を参照。
※2 追加オークション開催前に公表される最新の供給計画における実需給年度（第2年度）のH3需要（離島除き）。

3. オークション結果の集計・公表

(7) 応札価格の加重平均

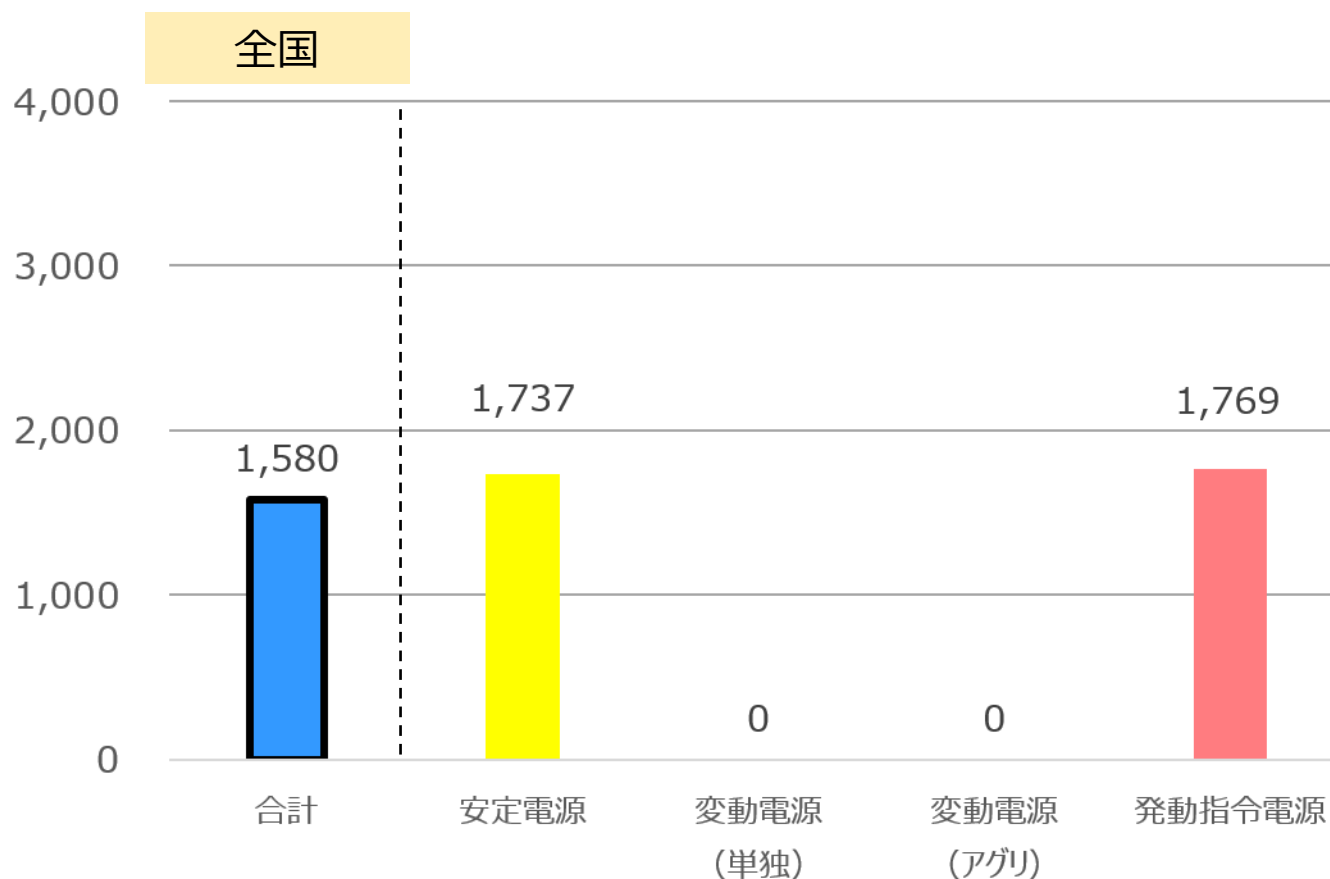
【追加オークション】

32

- 全国の応札価格の加重平均は1,580円/kWであった。電源等の区分別では、安定電源が1,737円/kW、変動電源（単独）・変動電源（アグリゲート）が0円/kW、発動指令電源が1,769円/kWであった。

応札価格（加重平均）

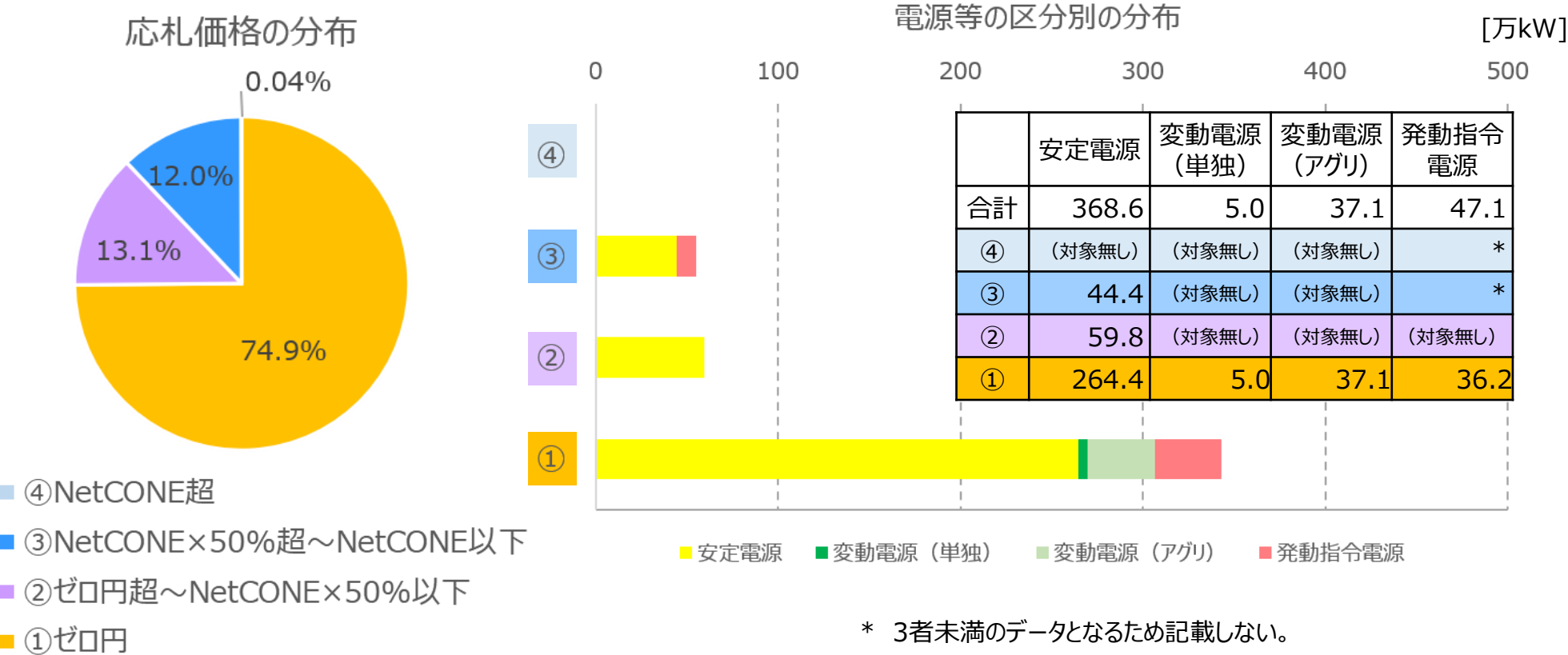
[単位：円/kW]



- ※ 発動指令電源の応札容量は調整係数反映後の容量で集計。
- ※ 3者未満のデータとなるため、ブロック構成に合わせた集計は記載しない。

3. オークション結果の集計・公表
(8) 応札価格の分布

- 応札価格を「①0円」「②～Net CONEの50%以下」「③～Net CONE以下」「④Net CONE超」の4つの区分にした応札価格の分布は下記のとおり。※Net CONE：10,343円/kW
- 「①0円」は74.9%、「②～Net CONEの50%以下」は13.1%、「③～Net CONE以下」は12.0%、「④Net CONE超」は0.04%であった。
- なお、変動電源（単独）、変動電源（アグリゲート）では全ての応札価格が0円/kWだった。



* 3者未満のデータとなるため記載しない。
※ 発動指令電源の応札容量は調整係数反映後の容量で集計。

3. オークション結果の集計・公表

(9) 追加オークションの約定結果公表時点の確保している供給力

【全体】

34

- 追加オークションの結果を反映した、容量市場での約定総容量は合計で1億6,882万kW、そのうち安定電源が1億5,725万kW、変動電源（単独）が435万kW、変動電源（アグリゲート）が95万kW、発動指令電源が486万kW、長期脱炭素電源が142万kWとなった。

■ 容量市場での約定総容量※1	1億6,882 万kW 87.6%
■ 安定電源	1億5,725 万kW 81.6%
■ 変動電源（単独）	435 万kW 2.3%
■ 変動電源（アグリ）	95 万kW 0.5%
■ 発動指令電源※2	486 万kW 2.5%
■ 長期脱炭素電源	142 万kW 0.7%
■ FIT電源等の期待容量	2,217 万kW 11.5%
■ 容量市場外の見込み供給力控除量	180 万kW 0.9%
確保している供給力	1億9,280 万kW

(内数)
追加オークション約定分

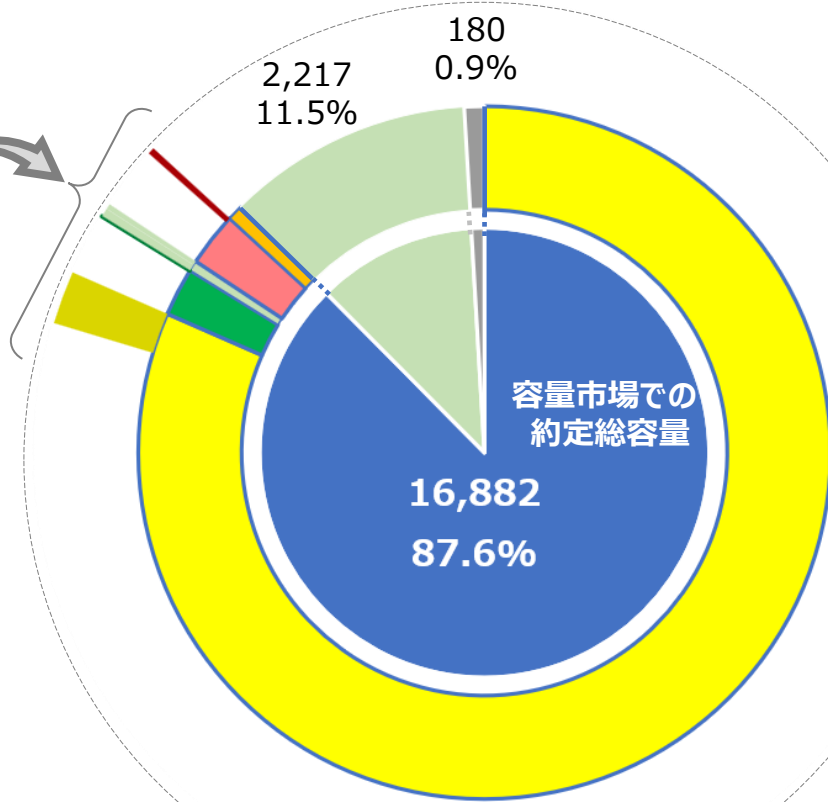
369 万kW
1.9%

5 万kW
0.03%

37 万kW
0.2%

47 万kW
0.2%

確保している供給力



※1 メインオークションの約定分については、2026年3月末時点での契約容量で集計。※2 発動指令電源の応札容量は調整係数反映後の容量で集計。

3. オークション結果の集計・公表

(10) 追加オークションの約定結果公表時点の調整機能あり電源の約定総容量

【全体】

35

- 追加オークションの結果を反映した、容量市場（メインオークション・追加オークション）における調整機能あり電源の約定総容量は下記のとおり。

	調整機能あり 電源の約定総容量※1			(参考) 確保している供給力※2
		(内) LNG	(内) 揚水	
全国	1億2,596 万kW	6,339 万kW	2,138 万kW	1億9,280 万kW
北海道	433 万kW	54 万kW	76 万kW	618 万kW
東北	1,260 万kW	659 万kW	45 万kW	2,192 万kW
東京	4,602 万kW	2,732 万kW	870 万kW	5,973 万kW
中部	2,125 万kW	1,276 万kW	347 万kW	2,661 万kW
北陸	346 万kW	88 万kW	0 万kW	661 万kW
関西	1,666 万kW	797 万kW	348 万kW	2,991 万kW
中国	606 万kW	243 万kW	186 万kW	1,309 万kW
四国	586 万kW	86 万kW	66 万kW	897 万kW
九州	972 万kW	405 万kW	199 万kW	1,977 万kW

※1 メインオークションの約定分については、2026年3月末時点での契約容量で集計。

※2 追加オークション実施判断時に確保済みの供給力（全国計で1億8,822万kW）を含む。

■ 容量市場のオークション結果について、以下の項目の対象実需給年度ごとの推移を示す。

(1) 調整機能あり電源の契約容量

4. オークション結果の推移

(1) 調整機能あり電源の契約容量

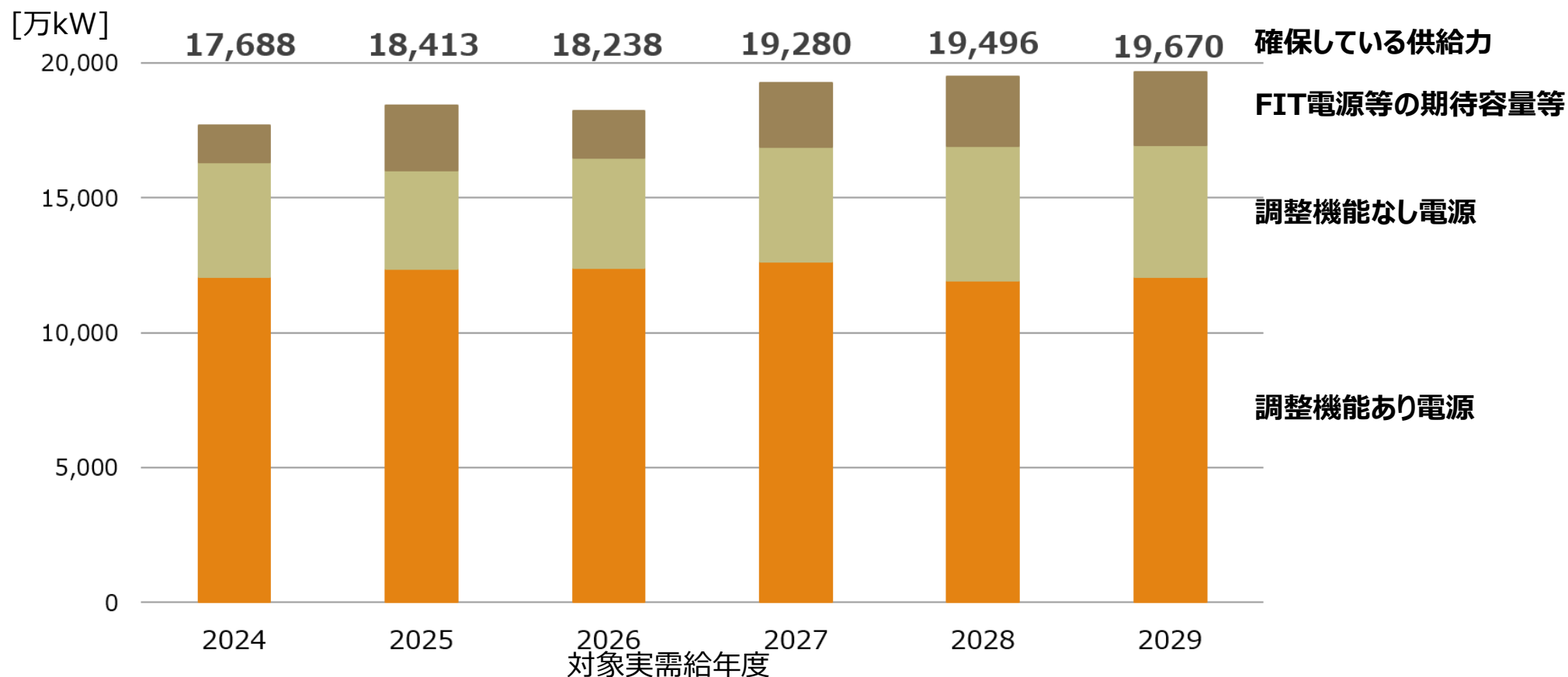
【全体】

37

■ これまでのオークションにおける「調整機能あり電源の契約容量」などの推移は下記のとおり。

※ 各オークションでの約定容量は2026年3月時点での契約容量で集計。

※ 2027年度以降については長期脱炭素電源オークション調達分を含む。



<各種資料等参照先>

- ・容量市場に関するお知らせ等 <https://www.occto.or.jp/market-board/market/index.html>
- ・かいせつ容量市場スペシャルサイト <https://www.occto.or.jp/capacity-market/index.html>
- ・容量市場の在り方等に関する検討会 <https://www.occto.or.jp/iinkai/youryou/index.html>
- ・容量市場説明会資料・動画 https://www.occto.or.jp/market-board/market/youryou_setsumeikai.html
- ・総合資源エネルギー調査会 電力・ガス事業分科会
 電力・ガス基本政策小委員会（第102回まで）／次世代電力・ガス事業基盤構築小委員（第103～114回）
 制度検討作業部会／電力安定供給ワーキンググループ
 中間とりまとめ（平成30年7月）
https://www.meti.go.jp/shingikai/enecho/denryoku_gas/denryoku_gas/seido_kento/pdf/20180713_01.pdf
 第二次中間とりまとめ（令和元年7月）
https://www.meti.go.jp/shingikai/enecho/denryoku_gas/denryoku_gas/seido_kento/pdf/20190724_01.pdf
 第三次中間とりまとめ（令和2年7月）
https://www.meti.go.jp/shingikai/enecho/denryoku_gas/denryoku_gas/seido_kento/pdf/20200730_01.pdf
 第四次中間とりまとめ（令和3年6月）
https://www.meti.go.jp/shingikai/enecho/denryoku_gas/denryoku_gas/seido_kento/pdf/20210614_1.pdf
 第七次中間とりまとめ（令和4年7月）
https://www.meti.go.jp/shingikai/enecho/denryoku_gas/denryoku_gas/seido_kento/pdf/20220714_1.pdf
 第十三次中間とりまとめ（令和5年8月）
https://www.meti.go.jp/shingikai/enecho/denryoku_gas/denryoku_gas/seido_kento/pdf/20230810_1.pdf
 第十五次中間とりまとめ（令和6年2月）
https://www.meti.go.jp/shingikai/enecho/denryoku_gas/denryoku_gas/seido_kento/pdf/20240403_1.pdf
 第二十次中間とりまとめ（令和7年6月）
https://www.meti.go.jp/shingikai/enecho/denryoku_gas/jisedai_kiban/system_review/pdf/20250603_1.pdf

<お問い合わせ先> ・容量市場問合せ窓口

<https://prnb.f.msgs.jp/n/form/prnb/4HYrakKeQUy6eyWwfyvCr>